

「歩きスマホ」危ない

視界狭まり 事故の恐れ

利用者のモラル頼み 県内

スマートフォンを操作しながら歩く「歩きスマホ」。視界が一気に狭まり、歩行者や車に気付くのが遅れると事故の一因にもなりかねない。携帯電話各社は対策に乗り出しているものの、利用者のモラル頼みなのが現実だ。



信号の待ち時間に立ち止まってスマートフォンを操作する人たち。歩きながら操作すると視界が大幅に狭くなる=熊本市中央区

多くの人が行き交う熊本市中央区の上通、下通アーケード。歩きながらスマホを操作する人の姿が目立つ。会社員女性(26)は「今から妹と会う約束をしているので、LINE(ライン)で連絡を取っていた」。女子高生(15)は「自転車や歩行者にぶつかりそうになったことはあるが、(歩きスマホを)やめようとは思わない」と話す。

電動車を扱う米田裕喜さん(43)は「同市北区は、横断歩道で歩きスマホの人とぶつかった経験がある。目の前にいる私に気付いてもらえない。この5、6年のスマホの普及で、人通りが多い場所に行くのが怖くなっ

た」と漏らす。

県警は、歩きスマホに絡んだ事故件数を把握していないが、「全国的に事故が起きてい

る」と警戒する。東京消防庁によると、都内

(一部除く)では2014年の救急搬送者が30人。人と人がぶつかったり、階段や駅のホームから落ちたりする

事故が多く、重傷を負ったケースもあるという。

電気通信事業者協会が14年、東京都や大阪市など15、69歳の男女600人を対象にしたアンケートでは約85%の人が「歩きスマホをする人は増えている」

と回答。約56%が「歩きスマホをしている人にぶつかられそうになった経験がある」と答えている。

携帯電話会社は対応を急いでいる。NTTドコモは13年、歩きスマホを防ぐアプリを開発。歩きながらの操作を感知すると、警告画面を表示して操作できなくなり、立ち止まれば操作を再開できる仕組みだ。

同社は「歩きスマホは通常より約20分の1の視界になる」と危険性を認識しつつ、「利用者にもモラル向上を訴えるしかない難しさがある」という。

歩きスマホは海外でも問題化。米国のニューヨーク州は歩きスマホを禁じる条例を制定した。国内の携帯電話事情に詳しいモバイルネットワーク研究所(熊本市)の松川由美代表(44)は「利用者のマナーが改善されなければ、規制もやむを得ないのではないか」と指摘する。

(西島宏美)